

視聴者と審査員の評価の相違に基づく漫才の面白さの分析

山田 祥雅

今日、漫才を審査員が評価する漫才大会番組が放映されている。しかし、審査員の評価は主観的評価であるため、審査結果に対して批判が生じることがある。そこで本研究では、視聴者と審査員で評価が異なる漫才を、視聴者が視聴する際に得る印象の差異を明らかにする。印象の差異を明らかにすることによって、視聴者と審査員の両者が漫才で重視する要素を含む、漫才の客観的な評価基準を構築する手がかりを得ることを目的とする。

印象評価の実験に使用した漫才は、2011年、2012年、2014年に放送された THE MANZAI で、視聴者による評価と審査員による評価に大きな相違が見られた6本の漫才である。これらの漫才を28名の大学生に視聴してもらい、印象評価実験を行った。印象評価は7段階評価で27項目の印象評価を評価紙で行った。得られた評価から主成分法による因子分析を行い、使用した2011年、2012年、2014年のそれぞれの年の2本の漫才、視聴者の評価が高い漫才と審査員の評価が高い漫才で共通する印象評価を含む因子の比較を行った。

分析の結果、視聴者の評価が高い漫才3本で固有値1以上の因子が8つ得られたのに対し、審査員の評価が高い漫才では、固有値1以上の因子が3本中1本で8つ、2本で9つ得られた(結果1)。得られた因子のうち、累積寄与率が約50%を超える因子までをそれぞれの漫才で比較した。2011年、2012年、2014年の、それぞれ2本の漫才を比較した結果、2011年では「分かりやすさ」、「不快感」、2012年では「テンポ感」、「不まじめさ」、「噛み合わなさ」、2014年では「不信感」に関する因子が共通して得られた(結果2)。視聴者の評価が高い漫才と審査員の評価が高い漫才で共通する印象を比較した結果、視聴者の評価が高い漫才では「テンポ感」から得る印象が半分であったのに対し、審査員の評価が高い漫才では漫才の「話の内容」から得る印象が全てであった。また、視聴者の評価が高い漫才と審査員の評価が高い漫才で共通した印象評価は「話全体としてきらい」のみであった(結果3)。

結果1から、審査員の評価が高い漫才は、視聴者の評価が高い漫才よりも多くの印象が漫才の面白さに影響していると推測できる。どのような印象が漫才の面白さに影響するかについては、結果2から漫才の「分かりやすさ」、「不快感」、「テンポ感」、「不まじめさ」、「噛み合わなさ」、「不信感」であると推測できる。結果3からは、評価が異なる漫才において、視聴者の評価が高い漫才では「テンポ感」が特に重視されるのに対し、審査員の評価が高い漫才では、「話の内容」が特に重視されること推測できる。また、どちらの漫才も話全体としてきらいであることが漫才の面白さに影響すると推測できる。

結論として、本研究で調べたすべての漫才において、漫才の面白さに影響する基本的な印象項目が存在することが分かった。しかし、視聴者と審査員が漫才の面白さを評価するため、特に重視する漫才の印象項目に関しては異なっていると言える。

(指導教員 真栄城哲也)